

# YMCA News

8



## チャリティーランと私



「一緒に遊ぼう！」久しぶりにそう声をかけられたのは去年のチャリティーラン。

YMCAに通っていた頃の年下の子たちからそう誘われて、懐かしい思いになりました。私は小学生で初めて参加し、去年再び参加することにしました。私のチーム5人は全員高校3年生、受験勉強で忙しい時期でした。そんな私たちがみんなで参加を決めたのは、チャリティーランならではの楽しさがあったからです。

久しぶりに県立大学の敷地に足を踏み入れた時、少し緊張していました。小学校を卒業してから7年の月日が経ち、知らない人ばかりだと思っていたからです。しかし懐かしい友だちに再会して緊張は和らぎました。私たちが小学6年生の時に、低学年だった子たちにも会うことができ、その子たちの成長に驚かされました。小さい頃はおんぶに抱っこ、一緒に遊んで、勉強を教えていた子たちが今では私の身長を越して

いるのです！それだけではなく、今YMCAに通っている子たちの面倒をみていました。6年という月日がどれだけ大きいものなのか知りました。

チャリティーランが始まってからは、子どものようにたくさんはしゃいでたくさん笑い合いました。勉強ばかりしていた私には、自然の中をみんなでおしゃべりしながら走ったことが良いリフレッシュになりました。走り終わった後はリーダーの皆さんが準備してくれた屋台でおいしいものを食べ、ステージ発表を楽しみました。リーダーもたくさん参加していました。

チャリティーランに参加したことで、そして、まだ私にもYMCAのためにできることがあることを知りました。機会があればまた参加したいです。そして今度チャリティーランに参加したいと考えている人たちがいたらぜひ、たくさんのリーダーを探してみてください！

ぶらいむ・たいむ前瀧校卒業生  
岩手医科大学1年 玉澤 日咲子

### 盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、子ども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. 子どもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

## 【6月野外報告】地球とあそぼう



こんにちはー!チャーリーです!6月の「ちきゅうと、あそぼう」では、「竹でご飯を炊けるかな!?炊き込みご飯づくり♪」を6月23日(日)に外山森林公園で行いました!子どもたち43名、リーダー20名、スタッフ2名が参加しました。

現地に着くと、早速炊事に取り掛かりました。火付けをする子、お米をとぐ子、うちわであおぐ子、松ぼっくり集めをしていた子、子どもたちはそれぞれ役割分担をして取り組んでいました。

お米が上手く炊けたグループもあれば、あまり上手く炊けなかったグループもありましたが、「お米硬いね」と言って笑いあいながら、みんなほとんど完食をしていたので、失敗もいい経験となったのかなと思いました。

そして、午後からのフリータイムでは、鬼ごっこや水遊びをして遊びました。リーダーに、水鉄砲やバケツで水をかけていた子どもたちからは、とても生き生きとした表情が見られました。また、遊び道具の貸し借りを通して、違うグループの子とのかかわりも生まれていました。

野外活動では、子どもたちにとってもリーダーにとっても、新しい発見や体験ができると思います。今回の野外炊事は、成功だけでなく失敗もあったかもしれません。しかし、まずは挑戦してみようという気持ちを、これからも子どもたちに発信していきたいです。また、自分自身も子どもたちと一緒にこれからも全力で遊びたいです。

岩手県立大学2年 長谷川 心奏 (チャーリーリーダー)



## 【サポートプログラム報告】ナンを作ろう!



6月9日(日)に外山森林公園にて、サポートプログラム『ナンを作ろう!』の活動を行いました。当日は子ども8名、保護者7名、リーダー13名の28名が参加しました。

ナン作りの時間には、ナンの生地作りと火付けに挑戦しました。生地作りでは、初めて触る生地の感触にワクワクし、「気持ちいいね!」と言いながら捏ねていた子もいました。そして、頑張って捏ねた生地を、リボンやハートなど自分の好きな形に成形し、焼けるのを楽しみにしていました。



火付けでは、火が消えないように蔦を足したり、一生懸命うちわを使って扇いだりと、美味しいナンが焼けるように、みんなで協力しながら火付けに挑戦することができました。そして、ダッチオーブンで焼いたナンを、しらたまリーダーと、もーりリーダーが作ってくれたカレーと一緒に食べました。あまりにも美味しかったのか、3枚も食べる子や口いっぱい頬張る子がいたりとても満足している様子でした!みんなと一緒に食べたからか、今まで食べたナンの中で一番美味しく感じました!!

フリータイムでは、アスレチックで遊んだり、蟬の抜け殻を沢山集めたりし、子どもたちから生まれた様々な遊びを楽しみました。子どもたちは学年関係なく遊ぶ様子も見られ、子どもたち同士の関係も築けてきているように感じ、嬉しく思いました。

今回の活動においても、子どもたちの思いと、子どもたちのペースを大切にしながら活動することができたと思います。今後も、サポートプログラムだからこそ出来る活動を子どもたちと一緒に作っていききたいと思えます。

岩手大学4年 佐藤 桃華 (まめふくリーダー)

## 食物アレルギーと緊急時対応について



7月5日、盛岡YMCA中央センターにて、国立病院機構盛岡医療センター医師の佐々木朋子氏を講師に招き、食物アレルギーと緊急対応についての講習をおこないました。

研修の内容は、実際に起きた食物アレルギーに関する事例の紹介や、食物アレルギー反応はどのようにして起こるのか、実際に食物アレルギー反応が起きた時の対処法(発症した子どもへの対応、エピペンの使い方など)を中心に講義いただきました。

特に、この講習を受け『すべての教職員が意識し、組織として、対応に取り組む』という点が印象に残りました。今まで私は、自分の中の確かな知識を持ち、予防の対策や、実際に起きた際に対応できるようにすることが、アレルギー対策に必要なことだと考えていました。しかし、今回の研修を受け、自分ひとりだけでなく、子どもの命を預かる人間として、子どもとかかわる全員が同じ知識を持ち、連携し、迅速に対応できるようにすることが必要だということを知りました。

今後は、食物アレルギーにかかわらず、様々なアレルギー反応に関する知識を全職員、リーダーと共有し、同じ知識をもつことと、経過

記録票などの仕組みを、誰がどのように対応するかなどの役割を決め、迅速に対応できるようにしていきたいと思えます。

これから、長期休暇に入り、子どもたちが学童やキャンプで過ごす時間が増えていきますが、その中で、行事や特別おやつ、野外調理、野外活動など、いつもと違う環境や物に触れる時間が増えていきます。そういった中でも、子どもたちにとって楽しい時間を過ごせるように、まずはアレルギーや熱中症対策などの予防対策を整え、子どもたちが安心できる居場所になるよう、努めていきたいと思えます。



盛南センター長 中村 涉



# 盛岡YMCAインターナショナル・チャリティーラン2024



9月23日(月・祝)岩手県立大学を会場に、「第6回盛岡YMCAインターナショナル・チャリティーラン2024」を開催いたします。YMCAインターナショナル・チャリティーランは障がいのある子どもたちを支援するとともに、「障がい」への社会的な理解と関心を高めることを目的とした、駅伝大会です。

3年間、コロナ禍により中止や規模縮小に見舞われましたが、2023年度は、屋外ラン競技を復活させることもでき、31チームの参加となりました。YMCAのプログラムに参加している子どもたち、中学生、高校生とその保護者の皆様、大学生ボランティアリーダー、リーダーOB、地域の福祉団体の皆様と、幅広くご参加いただき大変盛り上がりしました。

盛岡YMCAのチャリティーランはタイムを競うルールではなく、申告した予想タイムにどれだけ近づけるかが入賞のポイントとなるため、仲間で協力して無理なく完走することができます。

ラン競技の他にも、ブース出店による飲食ができたり、地域団体に



よるステージショーがあったりと、家族や友達と一緒に、誰でも気軽に参加して楽しめる、盛岡YMCAらしい活動になっています。参加費やいただいたご寄付は、YMCAが全国で展開する「子どもたちの支援プログラム」に充当させていただいています。

盛岡YMCAとして2023年度は、認定NPO法人accommonさんと共同で、集団生活を苦手とする子どもたちを対象とした、【サポートプログラム】を開催し、のべ12名の子どもたちへプログラムを提供し、楽しんでいただきました。

このようにインターナショナル・チャリティーランへ参加、ご寄付をいただくことでたくさんの子どもの笑顔が増えていきます。この素敵なプログラムを、より多くの方々へ発信ができていければと私たちは考えております。

皆様や地域企業、各団体様のご協力なしでは実現できないことではありますので、何卒お力添えのほど、よろしくお願いたします。

インターナショナル・チャリティーラン 主担当 東森聡



## 振り返り研修(職員・リーダー対象)



### 自分を振り返る

「振り返り」とは、「自分を問うこと」だと今回の研修で学びました。

私は普段、子どもたちと関わる中で、毎日のように「振り返り」をしています。次の活動に活かすための「振り返り」です。しかし、今回の研修で「振り返り」そのものの考え方が一変しました。

今回行ったワークショップで、私は観察者として参加しました。リーダーたちがテーマについて話合いをしている中で、1人のリーダーが気になりました。そのリーダーは話そうとするたびに、誰かに遮られたり、違う話題に変わったりと、話すタイミングがつかめない場面が多々あったのです。話し合い終了後、そのことを伝えると、本人はそんなことはなく話できていたと言ったのです。

この時、私は勝手に彼の思いを「判断」していたのだと気づきました。これは彼に向けた振り返りではなく、私自身の振り返りでした。よく考えれば、私はいつもそうしたことに目がいきます。一人一人が心から楽しめているか、一人ぼっちの子はいないか、退屈している子はいないか、と。それはよくも悪くも自分の価値観なのだと思います。今回も「彼は話したいけど話せてない!」と自分で勝手に判断したのだと思いました。

普段の活動でも、そういった場面は多々あります。この子はきっとこうしたいんだろうな、あの子は今こう思っているんだろうなと、「判断」しています。それが悪いということではなく、それが本当にそうなのかは当事者にしか分からないということ、私たちがリーダーたちは知っていることが重要だと思いました。そして、その「判断」は自分の価値観で見た一つの「解釈」であることを忘れず、目の前の子どもたちとかわりを深めていきたいと思えます。

向中野センター長 武田悠

### 振り返りについて

7月13日(土)YMCA中央センターにて、盛岡YMCA常議員の上條直美さんから、リーダートレーニングとして「振り返りの仕方」についてご講話頂きました。始めは振り返りの意義や在り方についてご説明いただき、次に、グループワークを通じて自分自身の参加の仕方の振り返りを行い、最後に、事例を見ながら文章における事実と解釈の区別について学習しました。

今回の内容で最も印象的だったのは、「事後の振り返りではなく行為の中の省察」という言葉でした。自分自身YMCAの活動以外にも様々な場面で、「事後の振り返り」を与えられた環境の中で受動的に行っていたのですが、今回のお話を伺い、特定の場面ではなく日頃の行為の中で主体的に省察を行うことが重要であると気づきました。そして、それが日々の何気ない行為を学びの機会として活用するチャンスになるのだと学びました。他にも、振り返りには他者・自分・関係性といった視点の三つの方向性があるということや、事実と解釈を分けた振り返りの記述・読み取りの重要性についてもお話いただき、振り返りの時間だけでなく対象や情報共有にも意識を向けていきたいと感じました。

今回は普段意識する事の少ない「振り返り」について多角的に話し頂き、非常に新鮮に感じました。振り返りの留意点を日頃から意識し、よりよい活動に繋がられるよう頑張っていきたいと思います。



岩手県立大学2年  
滝澤里菜  
(ぐらリーダー)

# YMCAの行う国際協力②「ウクライナ避難者支援」



YMCAのウクライナ避難者支援は、2022年3月初旬に、日本への避難を希望された1人の方を、ポーランドYMCA・ヨーロッパYMCA同盟・日本YMCA同盟が連携し、出国から来日まで2週間にわたってサポートしたことから始まりました。その後も継続した支援活動を続け、関係省庁や東京都との連携もあり、2024年6月30日時点で1635人へ伴走支援を実践しています。

支援が始まってから2年が経った現在は、日本国内で、外国にルーツのある子どもを対象としたキャンプの実施や、Amazonと共同し、避難者を対象にした子ども向け無料プログラミング教室の開催、避難者の就労や教育への不安に対するサポート(長期滞在伴走支援)等を行っています。

また、現地(ウクライナ)では、家族をなくした子ども達を対象

に、専門家による動物の触れ合いや、アートを取り入れたキャンプを実施しています。

今もなお、終わりが見えない状況ではありますが、YMCAは引き続き支援活動を行っていきます。これらの活動は、全て皆さまからのご寄附によって支えられています。長期化が確実視されるこの活動へのご理解とご支援のほど引き続きよろしくお願いいたします。

盛岡YMCA 本部事務局  
小川嘉文



## 盛岡YMCAリーダー紹介②①



おはこんちゅーば!岩手県立大学総合政策学部3年のちゅーばです!私は現在、公務員を目指しています。好きなことは旅行をすることで、今年はいろいろなところに行く予定があるので楽しみにしています。

そんな私ですが、実は出身が仙台で、同じ高校から同じ大学に来た人は1人(それもあまり話したことがない人)と、慣れない環境で大学生活がスタートしました。YMCAを知ったのはオンライン新入生説明会だったと記憶しています。

最初は「キャンプ楽しそうだなあ」とか「ほかの大学の人もいるのか」という不純な動機で入った気がしますが、2年経ってYMCAで得た経験はとても大きく、その経験はYMCA以外では得ることができないと感じています。

普段は主に野外活動に参加しています。毎月会うたびに成長する子どもたちの様子を見ると、こちらも成長している気がして、とても自分の支えになっています。中高時代は文化部で、どちらかと言えばインドア派だった私ですが、大学に入りそしてYMCAに携わるようになったことで、アウトドア派になりました。それは、ただ単に活動が野外というだけでなく、子どもと関わるという点で、内向的な面が外向的になっていったのだなと思っています。

あと一年半、子どもたちの前で自分の最大限の力を使い、活動を盛り上げていければと思います。

それでは、私が好きな曲の一節で終わります。

「この瞬間を無駄にはしない、人生あつという間だ、周りなんか関係ない」

岩手県立大学3年 渡邊 夏生(ちゅーばリーダー)



## 9・10月活動案内



### 9月

サッカー	木曜	9/5、12、19、26
	金曜	9/6、13、20、27
	幼児	9/7、14、21、28
	土曜小学生	

水泳	月曜	9/2、9、30
	水曜	9/4、11、18、25
	木曜	9/5、12、19、26
	金曜	9/6、13、20、27

体育教室	第一	9/7、14、21、28
	第二	

英会話教室	水曜	9/4、11、18、25
	金曜	9/6、13、20、27

ちきゅうと、遊ぼう 9/29

インターナショナル・チャリティーラン 9/23

### 10月

サッカー	木曜	10/3、10、17、24
	金曜	10/4、11、18、25
	幼児	10/5、12、19、26
	土曜小学生	

水泳	月曜	10/7、14、28
	水曜	10/2、9、16、23、30
	木曜	10/3、10、17、24、31
	金曜	10/4、11、18、25

体育教室	第一	10/5、12、19、26
	第二	

英会話教室	水曜	10/2、9、16、23、30
	金曜	10/4、11、18、25

ちきゅうと、遊ぼう 10/27

サンデースクール 10/20

合同サッカースクール 10/20

### 表紙の写真から



第5回盛岡YMCAインターナショナル・チャリティーラン、スタート前に全チームの第1走者が意気込みを全身で現わしています。上位を狙うチーム、楽しく走るチームそれぞれの意気込みが伝わってきます。今年も楽しく全員がハッピーになれる大会をみんなで作り上げていきます!

(2024年度7月新規会員) 敬称略

●2024年度 維持会員

宮澤悠、宮澤秋彦、押切梓、工藤悦子、佐藤翔、田村治之、長岡正彦、川坂保宏

最新情報はこちらでチェックできます!「盛岡YMCA」で検索ください。



ホームページ



facebook



instagram